

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1570500544
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	柏崎グループホーム ふれあいの家
所在地	新潟県柏崎市柳田町7-26 (電話) 0257-28-0170

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 11月 18日

【情報提供票より】(19年 10月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 22日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤 15人、非常勤 0人、常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 平屋 建ての 1 階 部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または月額		32,000 円	

(4) 利用者の概要 (19年 10月現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2		10 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2			名
年齢	平均 84.05 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前畑医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは柏崎市郊外の新興住宅地の中にある。ショッピングセンターが隣にあり食材の買出しや買い物等に便利である。建物は木の温かみを感じられる木造平屋建てであり、リビングにある畳敷きの小上がりにはコタツが置かれ、また、ソファやベンチもあり、利用者が横になったりできる憩いの場となっている。職員の利用者への関わり方はゆったりとしており、利用者の表情は明るく笑顔があり、生き生きとした生活が営まれている様子が窺えた。敷地内の畑で野菜等を作り、それを食材として活用するなど、利用者の出来ることを活かした活動の場が提供されている。7月の中越沖地震では停電・断水等で苦労したが、地震発生の翌日には避難所に全員が無事避難するなど、日ごろの訓練をふまえて機敏に行動した。避難所での生活や、その後ホームに戻っての生活でも系列の機関からいち早く応援が入り対応できた。このような災害時のバックアップ体制が確立していることは、利用者・家族にとっても非常に心強いところである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>マニュアルの整備、口腔ケア、栄養の摂取、カロリーの確認については整備等が進められ改善が図られていたが、緊急時の手当についての事態を想定した実地訓練が行われていなかった。今回の地震での避難訓練の成果も生かし是非実施してほしい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に当たっても全職員で話し合い、検討が行なわれた。利用者への介護サービスの在り方等について前向きな議論が行なわれ、実践されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>残念なことに中越沖地震の影響で開催されていなかったが、近々に予定されているので避難訓練の評価や市町村との連携、地域とのつながり等活発な議論を期待したい。また、地域とのつながりを深めていく意味から、保育園や中学校等地元の関係機関の方からも運営推進会議の構成員になっていただいている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>「ふれあいの家の新聞」を定期的に発行し、利用者のホームでの様子を伝えている。また、相談・苦情箱も設置し、家族の意見を前向きに受け止める姿勢がある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周りは新興住宅地であるが保育園児の訪問や中学生のボランティア活動の受け入れ、地域のお祭りへの参加など、利用者と地域の方との交流を深めるよう努めている。より地域とのつながりを大切に更に一工夫をお願いしたい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

↓ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和を大切にすること」を基本理念に掲げ、職員全員が利用者を尊重し、その人らしさを大切にすることを実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、管理者は理念の実践として、月ごとの目標を設定したり、「一日一笑」を心がけた取り組みを行なうなど、理念を共有し、実践に努めている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族の面会時や、2か月に一回発行される「ふれあいの家の新聞」で周知が図られている。		地域への浸透については更に努力をお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児の訪問や中学生のボランティア活動の受け入れ、地域のお祭りへの参加などを通じて交流を深めている。また、地域のボランティアから訪問していただき踊りを披露していただく計画も考えている。		新興住宅地ということで、地域とのつながりはこれからと思われる。保育園や小中学校の関係者や、地域の区長等への働きかけを継続し、地域の一員として関わりを持てるようよりいっそうの取り組みを期待したい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価に当たっても全職員で検討を行なった。また、前回の外部評価の結果を受け、前向きに改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は中越沖地震の関係で実施が延期されていたが、近々に開催が予定されている。		近く開催の会議で、地震の体験等も踏まえた実のある活発な話し合いを期待したい。さらに地域との連携を深められるよう、会議のメンバーに、保育園や小中学校の関係者や地域の区長等にも参加していただければどうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	栄養バランスやカロリー等の指導を行政から受けたが、ホーム側から運営面等で積極的に市と連携を図る取り組みは不足している。		例えば栄養指導の継続を依頼したり、ホーム内の勉強会で市に講師を依頼して指導してもらおう等、さまざまな面からさらに積極的に市との連携を図っていくことが期待される。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するほか、ホーム内でも全職員で周知し合い、虐待防止に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にお話ししたり、ホーム便り送付時に担当が一言添え書きして、利用者の近況を家族に伝えている。ホーム便りでは、利用者のホームでの様子を写真等で伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族から意見を聞くようにし、出された意見については改善等に向け話し合いを行なっている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等を通して職員の意見を出来るだけ取り入れるようにしており、必要なことは運営に役立てよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期、職員の退職が続いた時期があったが、管理者が職員と話をしたり意見を聞く機会を持つようにし、4月以降は職員が定着している。退職等がある際は、担当の利用者・家族に挨拶をし、また、引き継ぎを行ない利用者のケアに影響がないよう努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種の業務マニュアルについて整備し、活用している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に従い本社の巡回研修や認知症関連研修に参加するとともに、伝達研修を行い、職員の資質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の高齢者福祉施設により開催される研修会や勉強会に参加し、情報交換や交流の機会となっている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者も職員のストレス軽減に前向きに取り組んでおり、研修会への参加やミーティング時の話し合い等を通じて、ストレスを抱え込まないよう取り組んでいる。休憩時間も確保している。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人からホームを見学していただき、安心していただくよう努めている。また、入居当初はホームでの生活に早く慣れるよう、家族の面会の機会を多くする働きかけを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員から介護されると言う立場だけでなく、畑仕事などでは逆に職員が利用者から教えてもらうような場面を設定するなど、利用者の経験や得意なことを等を活かしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者のできること・やりたいことを家族とともに支えあうため、家族の来所時等に話し合いをもつなど、ともに本人を支える関係作りに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が一对一で利用者から話を聞いたり、居室についてもフローリングか畳のどちらがよいか選択していただくなど、一人ひとりの思い、好み、希望等に答えるよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に訪問し、利用者や家族から今迄の生活状況、出来ることや好きなことなどをお聞きし、ホームでの生活・活動に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で意見交換やカンファレンスを行ない、利用者の気持ち、職員の思いや気づき、意見を介護計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの定期的な見直しのほか、状態変化時の見直しも適切に行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院にはホーム職員が付き添いを行なっている。また、利用者の希望に応じて自宅への訪問を支援したり、入院中の利用者への面会なども、家族と協力して対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、入居前からのかかりつけ医に継続して受診している。通院はホーム職員が付き添い、病状の把握に努めている。		利用者の状態について医療機関と面談した記録の中で、日時や面談者等について記載が十分でないものが見受けられた。内容はもちろんのこと、日時や面談者等についても詳細に記録してほしい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い避けて通れない「ターミナルケア」について家族に希望を聴取し、ホームとしてどこまでができるのか今後の方向性が検討されている。また、医療連携体制についても今後検討する予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に利用者を尊敬しプライバシーを守ることを大切に対応している。調査当日も職員の表情や言葉かけは明るく丁寧で、利用者を大切にしている様子が窺えた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ無理強いせず、それぞれの利用者の自主性を尊重している。調査当日も、グループで歌を唄ったり、その間コタツで横になりたい方は横になったりと、利用者は思い思いの過ごし方をされていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきなどの食事の下ごしらえや配膳、下膳、食器洗い、盛り付けなど職員と利用者が協力し合い、楽しく食事ができる雰囲気づくりがされている。季節によってはホームの畑でとれた野菜等を食材として使い、話題にするなど、楽しい食事になるよう取り組んでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表により利用者一人ひとりの日々の排泄パターンを把握しており、トイレ誘導も適切に行われている。また、排泄の失敗があった場合は、精神的な負担にならないよう特に配慮して声かけ等を行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間等は利用者の希望にあわせ、夕方の入浴希望についても対応している。また、車椅子の利用者には職員が二人で介助し、入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームで役割を持ったり生活を楽しんでもらうため、裁縫やスーパーへの買い物、食事時の手伝いなどをしてもらったり、洗濯物を干したり、ピアノを引くなど、利用者の出来ること・得意なことをお願いしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや誕生日の買い物、地域のゴミ拾い、自宅への訪問など利用者の希望に合わせた外出の支援が行なわれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わないことを確認し、ホーム全体での取り組みが確実に行なわれている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はいつでも出入りが自由に行えるよう玄関は開放されている。安全確保のため、玄関に鈴を設置し、出入りを確認している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書をまとめ、ミーティング時に話し合い、再発の防止に努めている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	出来るだけ利用者の日ごろの状態を観察し、早めの対応で事故が発生しないよう未然防止に努めている。しかし、急変時を想定した実地訓練が行なわれていない。		全ての職員がいざという時に適切に対応できるよう、急変時を想定した実地訓練を行なうことを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	消防訓練は年2回定期的に行なっている。今回の中越沖地震でも大きな混乱もなく、職員が慌てず安全に避難誘導を行なえた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日確認している。前回評価を踏まえて柏崎市の栄養士から献立のカロリーや栄養バランスについて一度指導を受けた。		利用者の中には糖尿病で食事面に常に注意が必要な方がおられることから、栄養バランス・カロリー等について市の栄養士から定期的・継続的に指導を受けてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理と食堂ホールは対面式となっており、利用者が食器等を洗う様子が見られる。ホールには畳敷きのコーナーがあり、今の季節はコタツも用意するなど居心地よく過ごせる工夫がされている。外からの採光も、明るすぎないようカーテンで調整している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家で使われた思い出のある和タンスなどの調度品や家族の写真、キーボード、好きな歌手の写真などが飾られ、その人らしい居室づくりの工夫がされている。		